

# 時代の大きな変わり目の 中心に立とう

総務省サイバーセキュリティ統括官付  
参事官(政策担当)

## 赤阪 晋介 Shinsuke AKASAKA

平成 6年 4月 郵政省採用  
同 通信政策局政策課  
平成 8年 7月 英国留学(ロンドン大学(LSE)大学院)  
平成 10年 6月 郵政省通信政策局政策課政策係長  
平成 12年 7月 同 放送行政局有線放送課課長補佐  
平成 13年 1月 総務省情報通信政策局地域放送課課長補佐  
平成 14年 8月 同 情報通信政策局総合政策課課長補佐  
平成 15年 3月 同 情報流通振興課セキュリティ対策室  
平成 16年 4月 独立行政法人情報通信研究機構総合企画部  
企画戦略室マネージャー  
平成 18年 8月 総務省自治財政局財務調査課課長補佐  
平成 19年 7月 同 総合通信基盤局電波部衛星移動通信課課長補佐  
併任 電波政策課  
平成 20年 7月 独立行政法人情報通信研究機構総務部シニアマネージャー  
平成 22年 7月 総務省大臣官房秘書課課長補佐  
平成 24年 7月 同 情報通信国際戦略局情報通信政策課調査官  
平成 26年 1月 同 情報流通行政局情報流通振興課  
情報セキュリティ対策室長  
平成 27年 8月 東武鉄道株式会社・  
東武タワースカイツリー株式会社(官民交流派遣)  
平成 29年 7月 総務省情報流通行政局情報流通振興課企画官  
平成 30年 7月 現職



### 若手職員の声



総務省サイバーセキュリティ統括官付  
参事官(政策担当)付

遠藤 琢  
(平成29年度入省)

私は、サイバーセキュリティ人材の育成等を担当しています。サイバーセキュリティ人材は2020年までに約19.3万人不足するともいわれ、質・量ともに早急に充実させていく必要があります。サイバーセキュリティは、人材育成以外にも課題が山積していることもあって一筋縄ではいかない政策課題ですが、政策立案の過程では私の意見が採用されることもあり、やりがいも感じる仕事です。

赤阪参事官は日々職員や有識者と議論を重ねながら、政策のコストや効果を考慮した的確な解決策を論理的に提示されます。また、仕事以外の話題では冗談を交えて気さくに話しかけてくださったり、ワークライフバランスの向上を奨励されたりするなど、常に職員のことを気にかけておられます。私も赤阪参事官の冷静な判断力と暖かい心を模範に、行政官として成長したいと考えています。



官民交流派遣中に参加したマラソン大会にて

### ■ 常識は変わる

あなたが職場で使用しているパソコンがマルウェアに感染した挙動を示しました。求められる行動は次のどちらでしょう？

- ① パソコンに繋がっているLANケーブルをいち早く引き抜く。
- ② パソコンはそのままして、セキュリティ担当部署へ速やかに連絡して指示を仰ぐ。

数年前までは組織内での感染の広がりを防ぐために、①の対応がほぼ唯一の正解とされていました。それがデジタルフォレンジック(デジタル証拠を収集・分析する技術)の進歩とともに、最近では、被害の証拠を保全するためにあえてすぐにはケーブルを引き抜かない②の対応が推奨される場面も増えてきました。

これは私が現在担当しているサイバーセキュリティに関する一例ですが、技術革新の著しいICT分野においては、何が当たり前かが次々に変わっていきます。そもそも私が霞ヶ関に入った25年前には、インターネットも携帯電話も当たり前ではありませんでしたし、スマホは影も形もありませんでした。それまでの常識に囚われず、変化の波への感度を高くすることが情報通信行政には求められます。

### ■ ICTで”世界を変える

これまでのICTの進展は、ネットワークや技術の高度化などICT“が”変わるという側面が強かったように思います。それがようやくICT“で”世の中が変わるという段階まで進んできました。

世界はいま狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続くSociety5.0の実現に向かっていきます。新しい社会の三種の神器はIoT、ビッグデータ、AIとも言われます。スマホやIoTを通じて、人々のあらゆる行動や機器に関するデータ、環境情報などがビッグデータ化され、AIによる分析を通じてリアルな社会へとフィードバックされていきます。FinTech、EdTech、AgriTech、HealthTechなどあらゆる分野においてICTを駆使した最新のテクノロジーが融合することで、産業の在り方が大きく変わろうとしています。

私の勤続年数は、そのまま日本の「失われた10年・15年・20年」に対応するという状況が続いてきましたが、その潮目がここにきてようやく変わりつつあるように感じます。そしてその変化の中心にあるのがICTなのです。

### ■ 鳥の目 虫の目

「鳥の目、虫の目」という言葉があります。物事を捉える際に、鳥のように高いところから全体を俯瞰するというマクロな視点と、虫のように近くから掘り下げて細かく見るというミクロな視点があるということです。

行政に求められるのは、まさにこの2つの視点だと思えます。技術動向、社会情勢、国際情勢などマクロな視点から目指すべき方向を見定めつつ、個々の施策の実施に当たっては、解決すべき具体的な課題を見極め、細部にこだわりながらその実現に必要な手段を講じます。

世の中にただ一つの正解はありません。次々と起こる新しい事象に対して、関係省庁、業界、ユーザーなど様々なステークホルダーと調整しながら、その時々で最適な解を求めて掘り進むこととなります。どんなことにも好奇心と粘り強さをもって取り組む、若くて新しい力が総務省の扉を叩いてくれることをお待ちしております。

### PROJECT

#### IoT機器調査プロジェクト「NOTICE」

IoT化の進展とともに、あらゆるモノがネットワークに繋がりを、生活の利便性や企業の生産性が高まることが期待されています。その一方でネットワークに繋がるモノが増えるほど、サイバー攻撃にさらされる脅威も高まっています。特に狙われるのが「パスワード設定の甘い」IoT機器です。

そこで、本年よりネット上のIoT機器を隈なく調査し、「1111」、「admin」など攻撃者が容易に推測できるパスワードを用いているユーザーに対して、パスワード設定の変更など適切な対策を促すための注意喚起を行うプロジェクト「NOTICE」(National Operation Towards IoT Clean Environment)を実施しています。

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を控え、安全・安心なネットワーク環境の整備は待ったなしで、そのためには一人ひとりのユーザーのサイバーセキュリティに関する理解が不可欠です。